



利用者の声をお伝えします。

私の心を動かした一冊 ㊸

『麒麟解剖記』

(郡司芽久／著 ナツメ社)

大谷 治孝

ほぼ毎日のように図書館に通勤して、読書三昧の気楽な生活を送っていると、時々、図書館の書棚から「私を読んで！」という声が聞こえます。人文系の本を中心に読んでいた私が、理科系のこの本を手にとったのも、本の呼ぶ声に惹かれたからなのでしょう。

著者は1989年生まれの女性の動物研究者。図書館のHPの紹介で、「麒麟が亡くなりましたー。クリスマスも正月も、訃報で予定をキャンセルし…。これまでに30頭の麒麟を解剖し、「8番目の“首の骨”」を見つけた著者が、麒麟との出会い、探求、発見の日々を綴る。」(「TRC-MARC」より)と記されるこの本は、「学問をすることは楽しい」という純粋な思いを、素直な筆致で叙述した「青春記」です。

何よりもこの本に心を動かされたのは、最後のコラム「麒麟研究者の育て方」に記された、著者と母親についてのエピソードです。母娘で好きなことに夢中になり、夢をかなえるという、幸せな人生がつづられます。

「好きなことを研究して生きる」という楽しさであふれ、世知辛い現代社会にあって、おとぎ話のようなお話で、子育て中のお母さんにも、ぜひ、お勧めしたい一冊です。

最後に、同じく娘を持つ私としては、このような母娘を支えている「普通のサラリーマン」とだけ記された著者のお父さんを「大変ですね、これまでも、これからも」と、居酒屋で一杯やりながらねぎらいたい、とつくづく思います。

【編集後記】「もしも宝くじが当たったら、一生働かなくて遊んで暮らせるなあ。」なんて、誰でも一度は想像したことがあるはず!? それが現実になったら、働かないのか、いや、やっぱり何らかの形で働くとするのか……? そんなことを考えながらも、大なり小なりの山を越えながら、人は日々働いていくのでしょうか。本でも読んで息抜きしながら、「働く」についてあらためて考えてみませんか? (K)

10月～2020年3月の休館日

毎週月曜日、館内整理日(10/4、11/1、12/6、2/7、3/6)
年末年始(12/28～1/4)、特別整理期間(1/14～1/27)

☆10/14、10/22、11/3、11/23、1/13、2/11、2/23、3/20
の祝日は、全館開館(9:30～17:00)します。

図書館だより



2019.10.1 No.153

発行：生駒市図書館 生駒市辻町238番地

TEL：0743-75-5000 <http://lib.city.ikoma.lg.jp/>



「働き方改革」、あなたの職場は……?



平成31年4月から段階的に施行されている「働き方改革関連法」。生産年齢人口の減少が深刻化する中、「一億総活躍社会」を掲げ、長時間労働の抑制、正社員と非正規社員の待遇格差の解消、多様な雇用形態の推進等が進められています。半年が過ぎ、皆さんの周囲では実際に変化を感じているでしょうか?

これを機に、今回は「働く」をテーマに特集します。手に取ってもらえた本が、あなたの「働く」に笑顔が増えるきっかけとなれば幸いです。

『働き方の問題地図』

「で、どこから変える?」
旧態依然の職場の常識』

沢渡あまね／著
奥山睦／著
技術評論社



働き方、生き方をフレキシブルに

働き方改革は一過性のブーム? そう呑気に言っていられない程、「働く」にまつわる問題は山積。グローバル化、テレワーク、男性主体、副業等、様々な切り口から問題点を論じ、企業と働き手の双方がハッピーになる働き方を探る。

『10年後、君に仕事はあるのか?』

未来を生きるための
「雇われる力」』

藤原和博／著
ダイヤモンド社



10年後、それはもう目前だ

IT化やグローバル化で仕事が消滅していき、今までの標準的な人生モデルが追求できないこれからの時代。奈良市立一条高校の前校長である著者が、情報編集力や雇われる力が必要だと、高校生へ、そして大人へ向けて語りかける。

第5回

ビブリオバトル全国大会 in いこま

令和2年3月15日(日) 会場：生駒市図書館

スケジュール(予定)

- ・10:00～ 予選
- ・13:15～ 大宮エリー先生
トークイベント
- ・15:00～ 決勝

選りすぐりの一冊を手に
全国からバトラーが集う本の祭典!
大宮エリー先生のサイン会や
生駒のお土産販売等も予定しています。

生駒ビブリオバトル公式キャラクター
ほんのむしゅん



★観戦のお申込みは、生駒ビブリオ倶楽部 HP から

働き方改革元年「働く」を考える



特集期間
2019.10.5 (土)
~2020.4.2 (木)

『小説土佐堀川 広岡浅子の生涯』

古川智映子／著 潮出版社

座右の銘は「九転び十起き」



豪商三井家に生まれた浅子の商才は、嫁ぎ先の加島屋広岡家で開花。負けん気と人一倍の努力で難局を切り開き、鉱山、銀行、生命保険、女子大学創立と、次々と大事業を成し遂げていく。江戸末期から明治・大正を駆け抜けた不世出の女実業家の一代記。NHK連続テレビ小説「あさが来た」の原案本。

『仕事論』

「水曜どうでしょう」2人の名物ディレクターが働き方を語る

藤村忠寿／著 嬉野雅道／著 総合法令出版

仕事に悩む人は、読んでみてはどうでしょう？



ローカル番組「水曜どうでしょう」の名物ディレクター2人が語る、自身の経験に基づく「仕事論」。20代は仕事に不満があって当たり前、職場に慣れ、学び、経験を積む時間、30代は自分の仕事そのものを真剣に考える時、40歳を超えれば自分の力で職場環境を変えられる前例を示す立場になど、悩んでいる人へのヒントが得られる。

『七つの会議』

池井戸潤／著 日本経済新聞出版社

実績か？ 正義か？ 保身か？



大手総合電機メーカーの子会社の中で“地獄の二課”の営業課長をしていた原島。会議の度、部長に罵倒され、実績をあげる坂戸課長との差を見せつけられていたが、ある日坂戸の代わりに一課の課長になることを命じられる。突然の異動に不審を抱いた原島だったが、会社の抱えたとんでもない真実を知ることになる。

『新しいパパの働き方』

仕事も家庭も!欲張りガイドブック THE NEW FATHERS' BOOK』

ファザーリング・ジャパン／著 学研教育出版

目指せ、「育キャリ」パパ!



今や夫婦共働きが普通の時代。とはいうものの、会社と家庭、上司とママとの綱引きの真ん中で右往左往しているパパも多いのでは？そんな悩めるパパへ「上昇志向」「家庭志向」「柔軟志向」のタイプ別に、仕事と育児の両立を目指す「育キャリ」を提案。自分と家族に合ったワークスタイル・ライフスタイルを探してみよう。

『とにかくうちに帰ります』

津村記久子／著 新潮社

あなたの周りにもきっといる!?



体調不良を押して出勤し、菌をばらまき周りを休ませていく迷惑な営業マン。勝手に人の文房具を借りては返し忘れ、机がブラックホール化している職場のおじさん。豪雨で電車もバスも運休の中、とにかくうちに帰りたいと歩き続ける人達……。いるいる!とクスッと笑って共感を呼ぶ、働くあなたに寄り添う作品6篇。

『働く女子と罪悪感』

「こうあるべき」から離れたら、もっと仕事は楽しくなる!」

浜田敬子／著 集英社

“自分らしく”、働きたい



働き続ける女性が増える中、仕事と家庭の両立に悩みはつきない。雑誌「AERA」初の女性編集長だった著者は、自身の経験から女性の働き方改革を説く。育児や介護等をする人が却って居心地を悪くする過剰配慮や、時短勤務や残業できないことを理由に評価が下がる時間評価をやめ、自分達に合った新しい働き方を提案する。

『農ガール、農ライフ』

垣谷美雨／著 祥伝社

崖っぷちの人生、残された道は農業なのかも!?



水沢久美子、三十二歳。派遣切りに遭ったその日に、恋人から同棲解消を告げられる。仕事も恋人も家も失った彼女が飛びこんだのは農業の世界。余所者に土地は貸せない、農業したければ農家の嫁になれ……。そんな現実に直面しながら、それでも前を向く主人公にエールを贈りたくなる、清々しい農業小説。

『過労死 その仕事、命より大切ですか』 牧内昇平／著 ポプラ社

『大丈夫、働けます。』 成澤俊輔／著 ポプラ社

『人生100年時代の新しい働き方』 小暮真久／著 ダイヤモンド社

『なぜ共働きも専業主婦もしんどいのか』 中野円佳／著 PHP研究所

『同一労働同一賃金で、給料の上がる人・下がる人』 山口俊一／著 中央経済社

『「複業」のはじめ方』 藤木俊明／著 同文館出版

『AIで私の仕事はなくなりますか?』 田原総一郎／著 講談社

『会社や仕事につぶされない働き方・休み方』 茅嶋康太郎／著 すばる舎

『10年後の仕事図鑑』 堀江 貴文／著 落合 陽一／著 SBクリエイティブ

『ちょっと今から仕事やめてくる』 北川恵海／著 KADOKAWA

『ふむふむ おしえて、お仕事!』 三浦しをん／著 新潮社

『桜風堂ものがたり』

村山早紀／著 PHP研究所

やっぱり、本と読み手をつなぎたい……!



百貨店の中の銀河堂書店で働く月原一整は、隠れた名作を発見する天才。しかし、ある事件をきっかけに店を辞めることになる。今後の人生について思い悩む中、以前からネットで親交のあった山間にある桜風堂書店を訪ねる。ところが店主は病床にあり、一整に店を預かって欲しいと頼むのだった。